

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
安芸高田市立甲田小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	1	1	1	1	2	2	8	3	11

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	5	2	3	6	
理科	6	2	3	6	
算数	5	2	5	10	

授業時数 計 22 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 22 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画




教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: C)	D	D	B	A	推進	C	A	C	B	専科	C	C	C
6年 2組 (担任: D)	D	D	B	A	推進	C	A	C	B	専科	D	D	D
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: A)	D	A	C	推進	推進	A	C	A	B	専科	A	A	A
5年 2組 (担任: B)	D	C	C	推進	推進	A	C	A	B	専科	B	B	B

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)			
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)					
5-1	19	A	6-1	算数	5	15.9	8.1	24			
			6-2	算数	5						
			6-1	図工	1.4						
			6-2	図工	1.4						
			5-2	音楽	1.4						
			5-2	家庭	1.7						
5-2	19	B	5-1	体育	2.6	13.8	6.6	20.4			
			6-1	体育	2.6						
			6-2	体育	2.6						
			6-1	社会	3						
			6-2	社会	3						
			5-1	社会	2.9						
6-1	18	C	5-2	社会	2.9	12.6	7	19.6			
			5-1	図工	1.4						
			5-2	図工	1.4						
			6-2	家庭	1.6						
			6-2	音楽	1.4						
			5-2	書写	1						
			5-1	国語	4				13	9	22
			5-2	国語	4						
6-1	国語	4									
6-1	書写	1									

## 5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専科職員の専門的な指導、ブロック単位での授業づくり研修、教科担当者会、ミニ自主研修の実施</li> <li>・サイエンスクラブ</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内に生き物コーナーを設置</li> </ul> 
②	学級担任と教科担任がチームを組んで児童の指導にあたる「チーム担任制」の取組
③	中学校と合同の授業研究や校内研修、複数指導体制、中学校の英語教諭による外国語活動の指導、中学生職場体験の受け入れ等による中学校への円滑な移行、中学校体験入学の実施
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数学級で同一の教科を担当</li> <li>・授業準備や予備実験などを教科担任が実施</li> </ul> 
⑤	定期的な教科担当者会やブロックミーティング、ブロック内での事務仕事分担協力体制(週案・出席簿等)

〈成果〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期理科の単元末テストの結果、平均得点率60%以上の児童は、5年生94.7%、6年生94.6%で90%の目標を達成した。児童が興味をもてるような観察・実験の実施。予想→討論→観察・実験→考察→まとめの授業の流れの定着を図ることができた。</li> <li>・児童の興味に応じた実験を行い、理科好きな児童を増やした。</li> <li>・校内に生き物コーナーを作り、生き物に関心をもつ児童を増やそうとする取組をしている。</li> </ul>
②	<p>保護者アンケート「学校は、チームでより多くの職員が子どもに関わり、気持ちや実態を理解しようとしている」の項目は、肯定的評価91.1%で目標の90%を達成した。</p> <p>学級担任と教科担任がチームを組んで児童に関わることで、多角的・多面的に児童をみることができた。児童に関わる連携が日常化した。</p>
③	教科担任制推進により、中学校の教科担任制へのスムーズな移行ができた。小中の研修では、9年間を見越した協議ができ、互いに児童生徒の様子を知ることができた。
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた教科を担当し、複数学級で同じ教科指導を行うことができるため、教材研究等授業の準備が軽減され、児童に向き合う時間が増えた。令和7年2学期の時間外勤務平均は、9月22:38、10月29:00、11月21:03、12月22:28で、目標の35時間以内を達成した。</li> <li>・手間や時間もかかる準備が軽減され、学級担任の負担が減った。</li> </ul>
⑤	教科の系統性や評価、授業改善だけでなく、日常的に児童の様子の連携ができた。

〈課題〉	
①	児童の個別指導の時間確保
②	児童理解の共有の時間確保
③	<p>第2回児童アンケート「中学校から教科ごとに先生が代わることに對して、不安がなくなりました。」の項目の肯定的評価は67.6%であった。目標の85%には届いていないが、否定的な回答が5人だけで(6.7%)、「どちらともいえない」が19人(25.7%)ということで、否定的にとらえている児童は少ない。</p>
④	<p>年度当初は業務量が多く勤務時間をオーバーすることもあったが、教科担任制、チーム担任制による業務の効率化により、確実に時間外勤務を減らすことができた。</p>

〈対策〉	
①	学級担任と教科担任が協力して指導にあたるチーム担任制を活用し、教員同士で連携して、児童の指導にあたる。
②	ブロックミーティングを引き続き計画的に開催し、各教科等での児童実態を教職員間で共有し、個に応じた指導の充実につなげていく。
③	否定的な回答をした児童の自由記述について、年2回実施する個人面談の中で、より具体的に聴き取り、そのことを教科担任間で情報共有して、日々の指導に生かしていく。
④	週案の計画・実施、出席簿、朝会準備など、引き続きブロックで協力して効率的に業務を行う。お互いに声をかけあって、遅くとも18時には退校できるようにする。